

進路部だより

【2016-第4号】



2016. 7. 20.

7月1日から高卒求人公開がはじまり、進路室前の掲示板は、昨年の内定者・合格者の一覧が取り払われ、代わりにずらりと求人票が貼り出されています。昨年は一昨年前に比べて求人が急増した年で、管内の掲示板に貼り切れなかった求人はクリップに挟んで横にぶら下げる形をとりましたが、今年は岩高祭があったことを利用してそこで使っていた掲示板を拝借して管内用の掲示板をひとつ増やしました。「昨年よりも求人多いんですか？」とよく聞かれますが、件数的にはあまり変わらないと思います。しかし、世界経済の状況（円高傾向など）や世界情勢（イギリスのEU脱退など）などで、1件あたりの求人数はやや減っているように思います。

さてそんな中、3年生の就職希望者たちは足しげく進路資料室へ通い、応募する求人を必死に探していることでしょう。。。と想像していたら、昨年に比べて資料室に来る生徒の数が全然少ないですし、応募前職場見学の希望も全然少ないです。一部の意識のある生徒たちがいくつも見学希望を申し出ている一方で、まるっきり見学希望を出していなかったり、みんなが希望している人気企業の見学だけを希望してそれっきりという生徒も多くいます。

例年であればこの時期、3年生は3者面談をはじめていて、その3者面談を契機に求人を本気で探すという流れだったのですが、今年は3者面談が終業式以降にずれちゃってしまっているんで、3者面談から本格的に動こうとしてももうすでに職場見学が終わっている企業も多く、就職応募願の提出期限（8月4日）までほとんど日にちがないので、応募先を十分吟味できないことが予想されます。できれば、3者面談の前に応募先第1希望から第3希望まで決まっていたいものです。

**◆自分に適した仕事を探そう！～応募前職場見学・合同企業説明会**

では、自分に適した仕事を探す上でのポイントをいくつか書きます。

まず、はじめに言っておきますが、みなさんは今までアルバイトの経験は多少あるかもしれませんが、正社員として働いたことは一度もありません。「その事業所に正社員として正式に勤務する」経験がない以上、いくら考えても、いくら想像してみても、結局は「やってみなければ、わからない」というところにいきつきます。しかし、ここで選んだ仕事で、続かずに1年足らずで辞めちゃうと、高卒で何のキャリアもない状態では条件の良いところに正社員として再就職できるチャンスはほとんどなくなってしまいます。だからこそ、わからないながらもできる限り模索し、入社してから自分がすることになる仕事内容をできる限り具体的にイメージしてから応募先を決める必要があります。つまり、その具体的なイメージをつかむ上で、職場訪問に行ったり合同企業説明会に参加した際には、会社側の説明をただおとなしくお行儀よく黙って聞いて終わってしまうだけでは何の意味もありません。せっかく採用担当者の方々と直接対話できる機会なのですから、しっかり対話して「文字に書いてない情報」「目に見えない情報」を聞きだして下さい。心の優しい岩高生諸君は「こんな質問したら、せっかくこの場を設けて頂いた会社側に失礼になるのではないかと。。。」と気になる質問でもひかえてしまいがちですが、はっきり言えば、めでたく採用してもらっても、まちがったイメージで入社して、合わないからってすぐに離職する方が、会社にとって数百倍失礼に値しますし、何よりも自分にとって大きなマイナスになります。あとで後悔しないためにも、気になることは遠慮せずに聞いて下さい。



さて、自分に適した職探しのポイントとして、次の4点をあげておきます。

裏面を見よ！！ →

○待遇ではなく、職種で選ぶべし！

「給料が高いか」とか「休みが多いか」などは2の次です。給料がもらえる日は、月に1回。一般的に1週間に休みは2日。それはつまり、1週間に5日、次の給料日まで約20日働くということです。いくら高い給料がもらえるとしても、自分に合わない仕事を続けていくことはかなり困難です。給料日を待つよりも仕事の20日間を楽しく過ごす方が絶対に長く続きます。仕事は、長く続けばおもしろくなるし給料も上がるし有給休暇も増えていきます。求人票のような紙切れ1枚で判断せず、実際に職場を見に行き、その仕事内容をしっかりと理解することが一番大事です。



○採用担当者の話を鵜呑みにするな！

決して、「採用担当者はうそつきだ」とか「採用担当者が言う事は信用するな」と言ってるわけではありません。職場見学や合同企業説明会の場で会社の説明を受ける時に注意して欲しいことは、会社側は多くの人に自分の会社に興味をもってもらって多くの人に応募してもらいたいので、自分の会社の魅力やここでのやりがいを力説するのは当然だということです。ただ黙って説明を聞いているだけでは情報が偏ってしまいます。実際にそこで勤めはじめて、自分がもっていたイメージとのギャップを感じてしまうこととなります。だからこそ、質問することが大事なのです。自分が実際に働く上での具体的なイメージがつかめるまで、しつこくいろんな角度から質問してください。

○辞めた人の話に左右されるな！

往々にして、その会社を辞める人はその会社の悪口をあちこちで話したりします。一方、なんの不満もなく働き続けている人は、だいたい何も言いません。例えば、10人採用して、1人が合わなくて辞めたとしても、その1人のその会社への評価が外で独り歩きしていきます。「その会社について、良い噂を聞かないから辞めた方がいい」という話をよく聞きますが、もし興味のある職種内容であるなら、積極的に自分の目で見て、実際はどうなのか確かめることによって、自分の選択肢を広げることも大事だと思います。

○見学では働いている人の様子を見よ。特に、長く働いている人の表情を見よ！

長く働いているベテラン社員さんの動きを見ることによって、そこで働き続けた自分の5年後～10年後の未来の姿が見えるかもしれません。もし、職場訪問で、「こんな風に働ける人になりたい！」と思えるような社員に出会えたら、応募先として考えても良いかもしれません。

◆何をやりたいのか、わからない。。。

よくこんなため息のような言葉を生徒から聞きます。具体的に自分のやりたいことがあって、その目標に向かって着実に進んでいる逞しい生徒もいますが、多くの生徒は自分がどんな仕事に向いているのかわからないというのが実情でしょう。

それは、ある意味、当たり前なことだと思います。なぜなら、働いた経験もないし、世の中にどんな仕事があるのかという知識もないからです。「そこに何かがあるのか」という経験も知識もない人が、何もわからずに真っ暗闇の中に飛び込んでいくのであれば、当然、怖い不安に感じるのは当たり前のことです。そして、そういう人にこそ職場見学に行ってもらいたいのです。

やりたい事が見当たらない人こそ、どこか職場見学に行き、そこをきっかけに働くイメージを膨らませてみてください。

職場見学で見えるものは、「未来の自分」です。働いている従業員を「未来の自分」だと思って見てください。職場見学をいくつもすることによって、見学した回数分の「未来の自分」に会えます。その中から本当の自分の未来の姿を探してみるのはいかがですか？

